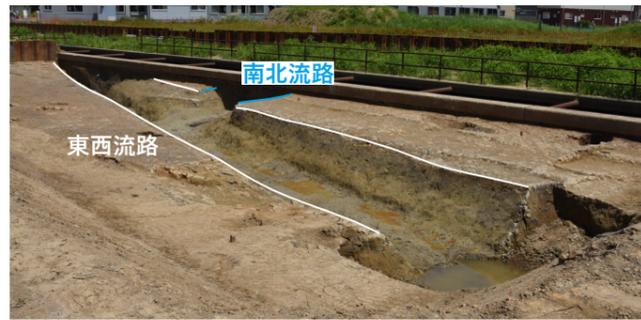


おかえ 丘江遺跡 現地説明会資料

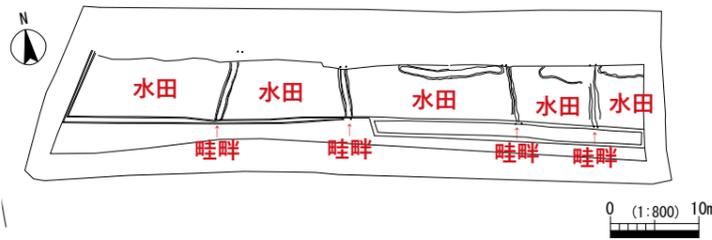


調査区④ 流路



調査区④ 流路堆積状況

すが、ピットは小さいものが多く、直径 30cm を超えるものは少数です。過去の調査でも北側にある東西溝周辺ではピットが幾分少なくなっていることからこの溝も居住域内を区切る溝であった可能性が高いです。さらに、井戸の一部では底部で曲物や漆器・播鉢を発見しています。



調査区① 上層平面図



調査区① 水田および畦畔

4 調査区①の概要

調査区①では、上層の調査が終了し、南北方向の畦畔を 4 条確認しました。調査区の北東部で、東西方向の溝状の遺構を確認し、珠洲焼の播鉢や陶器片などを発見しました。これらの遺物から、水田・畦畔・溝の時期は中世末から近世初頭の遺構であると考えています。現在は中層の調査(中世(13世紀以降)の水田および畦畔など)を行っています。

5 出土遺物

今年度の調査では、調査区①では珠洲焼の播鉢、陶器などを少数発見しています。

調査区③では畦畔の除去時に縄文土器を発見しています。また、流路の調査中に弥生土器の高杯・器台(壺などをおく台)・甕などのほか少数の須恵器を発見しています。

調査区④では流路から土人形(菅公像)や石臼、珠洲焼、陶器、砥石などを発見しています。

調査区⑤では井戸の底面部分で珠洲焼の播鉢や曲物を、そのほかに青磁、漆器、陶器などを発見しています。



調査区③ 弥生土器(器台)



調査区⑤ 播鉢



調査区④ 土人形



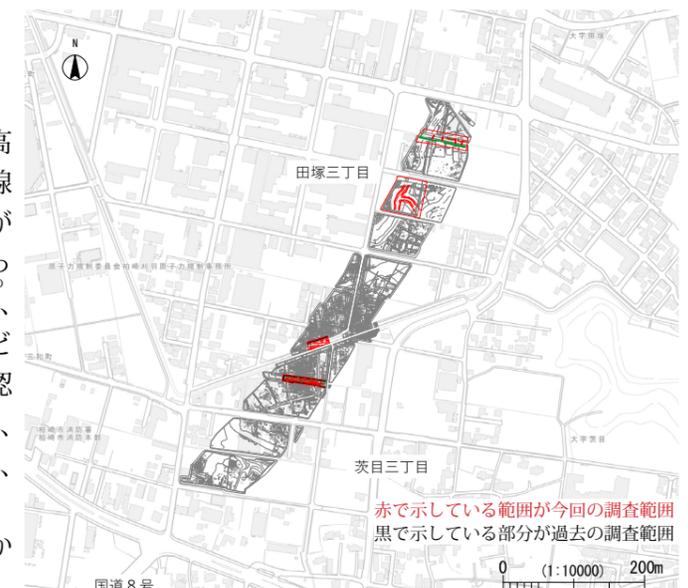
丘江遺跡の調査地点

日時：令和 4 年 9 月 3 日(土) 場所：柏崎市田塚三丁目 丘江遺跡発掘調査事務所
主催：公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 株式会社島田組新潟営業所

1 調査の概要

丘江遺跡は鯖石川左岸の沖積微高地に立地し、標高は 6～7 m です。国道 8 号柏崎バイパスの予定法線内、幅約 80～90 m、延長約 750 m の範囲で遺跡が広がることが分かり、平成 26 年度から発掘調査を行ってきました。13～15 世紀を中心とした掘立柱建物、土坑、竪穴状土坑、井戸、溝、道、ピット、水田などと、弥生時代後期から古墳時代にかけての流路を確認しています。中世の土師器、珠洲焼、銭貨、石造物、漆器、舌長鏡、塔婆や平安時代の土師器、須恵器、弥生土器を発見しています。

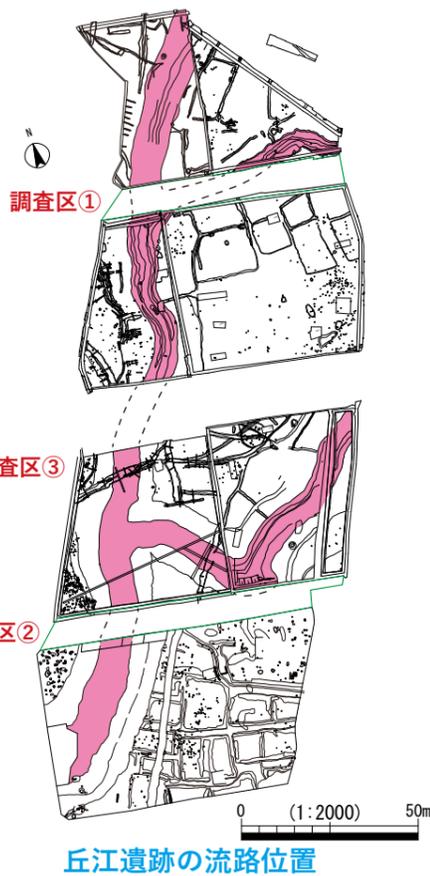
令和 4 年度は約 3200m² の範囲を対象に調査区①から調査区⑤の調査を行っています。調査区①～③では、



丘江遺跡の位置と調査範囲

国土地理院標準地図のデータを使用

じょうそう ちゅうそう かそう
 上層・中層・下層、調査区④・⑤では上層を調査しています。現在、調査区④・⑤の調査は既に終了し、調査区①で中層、調査区③では下層の調査を行っています。上層は中世末から近世初頭、中層は中世、下層は弥生時代後期・平安時代・中世と考えられます。



丘江遺跡の流路位置

調査区①の上層で水田と畦畔(あぜ)、調査区③の下層で弥生時代後期から中世にかけての流路、調査区④・⑤ではピット、井戸、水路を確認しています。遺跡の南側にあたる調査区④・⑤の調査では中世から近世にかけての居住域の状況がおおむね分かるようになりました。調査区③の流路では大量の流木を確認し、弥生時代後期以降の流路の様子が分かってきています。

2 調査区③の概要

調査区③の令和3年度の調査では金箔が押された木製塔婆が畦畔の盛り土を除去したところから発見されました。今年度の調査では下層の流路の調査を中心に行っています。上層から中層にかけての部分ではごく少数の弥生土器、須恵器などを発見しました。これらの部分は過去の調査から古墳時代から中世にかけての層であることがわかっています。現在、その下の弥生時代の層を主に調査をしています。その層で多くの流木を確認し、流木の間や下から弥生時代後期の土器を発見しました。現在、流木を取り除き、流路の底を確認する調査を行っています。この底面付近からも弥生時代後期の土器を発見しています。これらの弥生土器はよく似た形や文様をしていることから大きな時期差はないと考えています。また、南北方向の流路と東西方向の流路の合流部分でも多くの弥生土器を発見しています。



調査区③ 流路平面図



流木出土状況



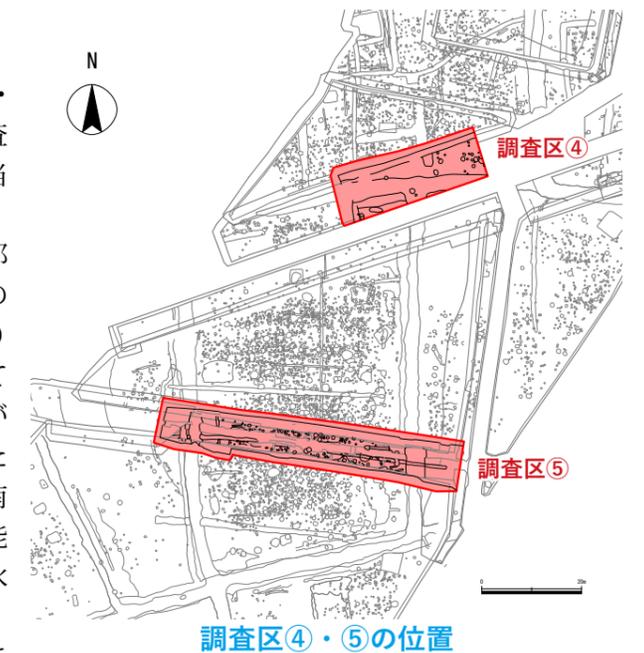
流路の堆積状況

3 調査区④・⑤の概要

調査区④・⑤では中世～近世にかけてのピット・井戸・井戸状遺構・水路を確認しました。これらは今までの調査で確認している掘立柱建物や縦横に走る水路の一部で、当時の居住域の景観を考える上で重要なものとなります。

調査区④では、東西に走る水路と南北に走る水路の一部を確認しました。この南北に走る水路は東西に走る水路の北側には伸びずに、ここから南へ流れていることがわかりました。東西に走る水路の北側で確認したピットはかつての調査で確認しているピット群と一体となっていることがわかります。東西水路の北側には掘立柱建物を中心とした居住域が広がっています。また、水路の堆積状況から、南北に走る水路の埋没後に、東西に走る水路が造られた可能性が高いこともわかりました。青磁の破片を東西に走る水路の中程で、珠洲焼の播鉢などを最下層で発見しました。

調査区⑤では、ピット・井戸・溝および水路を確認しました。調査区の西端と東端に南北に走る水路を確認し、東側の水路は、調査区④で確認した南北に走る水路の一部であることが、過去の調査の結果と照らし合わせることでわかります。また、調査区を東西に走る溝を、最近まで使用していた水路に分断される形で確認しています。この溝の周辺ではピットや井戸を確認していま



調査区④・⑤の位置



調査区④



調査区⑤

調査区④・⑤ 平面写真(上-調査区④、下-調査区⑤)